

# The 44th TOKYO MOTOR SHOW 2015

PRESS INFORMATION 2015.10.28

**HONDA**  
The Power of Dreams

# 考え抜き、やり抜き、つき抜ける。

だれかを喜ばせたり、驚かせたり、ワクワクさせたり、  
幸せにしたりするのがたまたまなく好きだから、  
Hondaはモビリティをつくっています。

でも、人の心を動かすことは、簡単なことではありません。

だからこそHondaは、モノづくりの出発点である“ひらめき”を大切にしています。

考えて、考えて、考え抜いて、ひらめきを独創的な“アイデア”へ。

さらに、そのアイデアを、革新の技術で“カタチ”へ。

想いを想いのままで終わらせることなく、製品として世の中に提案する。

そのために、諦めることなくやり抜き、これまでの常識や前例をつき抜けていく。

それこそ、「The Power of Dreams」です。

# The Power of Dreams

# 「想いを超えろ。」

人々の願いや期待、過去の自分たちを超えるモノをつくっていく、という決意を込めたテーマのもと、Hondaスピリットを体現した多彩なモビリティを出展。

▶ モビリティの名称をクリックすると各詳細ページへ移動します。

## Automobiles

01 Hondaから、水素社会を切り拓く革新のFCVを提案。  
**CLARITY FUEL CELL** 

02 異次元の“操る喜び”をもたらす、新時代のスーパースポーツを。  
**NSX** 

03 ダイナミック性能を極限まで突き詰めた歴代最高モデル。  
**CIVIC TYPE R** 

04 進化した「SPORT HYBRID i-MMD」を搭載し、優れた環境性能と力強い加速を高次元で両立。  
**ODYSSEY HYBRID** 



## Concept Models

05 二輪車と四輪車の価値を融合。Hondaだからできる新たなチャレンジへ。  
**Honda Project 2&4** powered by RC213V 



















06 自由な移動の先にある、新しい発見やドラマをめざして。  
**Honda WANDER STAND** CONCEPT 

07 街中を自在に行き来する、近未来パーソナルモビリティ。  
**Honda WANDER WALKER** CONCEPT 

## Automobiles

08 : S660 Motor Show Special Collection  (ワールドプレミア)  
09 : N-BOX  (ワールドプレミア)

## Motorcycles

10 : NEOWING  (ワールドプレミア)  
11 : Concept CB  (ワールドプレミア)  
12 : Light Weight Super Sports Concept  (ワールドプレミア)  
13 : EV-Cub Concept  (ワールドプレミア)  
14 : Super Cub Concept  (ワールドプレミア)  
15 : GROM 50 Scrambler Concept-One  (ワールドプレミア)  
16 : GROM 50 Scrambler Concept-Two  (ワールドプレミア)  
17 : RC213V-S  
18 : CRF1000L Africa Twin  (ジャパンプレミア)  
19 : NC750X  (ワールドプレミア)  
20 : 400X  (ワールドプレミア)  
21 : CBR400R  (ジャパンプレミア)  
22 : GOLDWING  (ジャパンプレミア)  
23 : CB1100 Customized Concept  (ジャパンプレミア)  
24 : CB1300 SUPER BOL D'OR Customized Concept  (ジャパンプレミア)  
25 : CB400 SUPER BOL D'OR Customized Concept  (ジャパンプレミア)  
26 : GROM Customized Concept  (ジャパンプレミア)  
27 : PCX Customized Concept  (ジャパンプレミア)  
28 : FORZA 125  
29 : Monkey  (ジャパンプレミア)

## Power Products

30 : E500 Battery Inverter Power Source  (ワールドプレミア)



# CLARITY

## FUEL CELL



### 市販予定車

■全長：4,895mm ■全幅：1,875mm ■全高：1,475mm

乗車定員	5名
一充填走行距離 (参考値、JC08モード走行時、Honda測定値)	700km以上*1
一回あたりの水素充填時間 (70MPa、外気温20℃の条件でのHonda測定値)	3分程度*2
燃料電池最高出力	100kW以上
燃料電池スタック出力密度	3.1kW/L*3
モーター最高出力	130kW
水素最高充填圧力	70MPa
エネルギーストレージ	リチウムイオンバッテリー



# 01

## Hondaから、水素社会を切り拓く革新のFCVを提案。

自由な移動の喜びと、豊かで持続可能な社会を両立するために、Hondaは、地球温暖化や化石燃料の枯渇といった課題への解決策として、いち早く水素に着目。「つくる」「つかう」「つながる」をコンセプトに、水素ステーション技術や燃料電池自動車、外部給電機能など、水素社会に向けたトータルな研究開発を行ってきました。2008年には、燃料電池自動車として世界初の専用設計セダン「FCXクラリティ」のリース販売を開始。そして2015年、東京モーターショーにおいて、ガソリン車同等の使い勝手と燃料電池自動車ならではの魅力を高次元で融合したセダン「クラリティ FUEL CELL」を提案します。Honda独創の技術により、世界で初めて\*4セダンタイプのボンネット内に燃料電池パワートレインを集約し、大人5人が快適に座れる、ゆとりあるフルキャビンパッケージを実現。さらに、700km以上\*1 (JC08モード走行時、Honda測定値)の一充填走行距離(参考値)や、3分程度\*2 (70MPa、外気温20℃の条件でのHonda測定値)という短時間での水素タンク充填、高出力モーターが生み出す爽快な走りを可能にしました。また、外部給電器「パワーエクスポーター9000」との組み合わせにより、非常時には“走る電源”として電力の供給も行えます。これからの時代が求めるパフォーマンスを凝縮した「クラリティ FUEL CELL」。新たなステージに進化した一台が、水素社会を切り拓いていきます。



\*1 SAE規格(J2601)の標準条件に基づいた水素充填圧70MPaステーションでの充填した後のHonda測定値であり、仕様の異なる水素ステーションで充填した場合は、水素タンク内に充填される水素量が異なるため、走行距離も異なります。また、走行距離は使用環境(気温、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて大きく異なります。  
\*2 充填圧及び外気温により、充填時間が異なる場合があります。 \*3 Honda測定値。 \*4 セダンタイプの市販予定車として、2015年10月現在、Honda調べ。



## 堂々とした車格と、先進の美しさを融合。

エクステリアデザインは、“BOLD and AERO”をコンセプトに、堂々とした車格を演出するワイド&ローボディと、空力性能を追求した流麗なフォルムを融合。セダンとしての美しさと、新たな時代を駆ける一台にふさわしい先進性を求めました。さらに、フルLEDによる薄くシャープな形状のヘッドライトや、空力性能とデザイン性を両立させた18インチアルミホイールを新採用しています。



## 心が満たされる、くつろぎ空間。

インテリアデザインは、“Advanced Modern Lounge”をコンセプトに、Hondaの考える瞬間認知・直感操作の設計思想に基づいた先進的なインターフェースを採用しました。さらに、温もりのある上質な素材を随所に使用するとともに、広さを感じるシンプルな構成にすることで、いつまでも乗っていたくなる心地良さを表現。先進と上質が調和したくつろぎの空間を生み出しています。



## 人のための空間は最大に、メカニズムは最小に。かつてないゆとりを生むHonda独創のパッケージ。

さまざまな車両に搭載できるコンパクトな燃料電池パワートレインの開発こそ、燃料電池自動車の本格的な普及につながる。Hondaはそう考え、燃料電池スタックや発電システムなどを大幅に小型化。燃料電池パワートレインを、V6エンジン\*1と同等サイズまでコンパクト化し、世界で初めて\*2セダンタイプのボンネット内に集約しました。これにより、パッケージングの自由度を飛躍的に向上させ、大人5人が快適に座れるフルキャビンパッケージを実現するとともに、将来、複数の車種に展開することを可能としています。

\*1 当社3.5L V6エンジン。 \*2 セダンタイプの市販予定車として、2015年10月現在、Honda調べ。

Honda独創のM-M(マン・マキシマム/メカ・ミニマム)思想が息づくセダンパッケージ



パワートレイン

バッテリー

水素タンク

### コンパクト化と高出力を両立。世界トップクラス\*1の燃料電池スタック性能。

Honda独自のWave流路セパレーターをさらに進化させるとともに、セルの高出力化や薄型化など、独創の技術を結集。従来比\*2 33%の小型化を実現した新開発Honda FC STACK。

\*1 2015年10月現在、Honda調べ。 \*2 「FCXクラリティ」との比較。 \*3 Honda測定値。



燃料電池  
最高出力  
**100** kW以上

燃料電池  
スタック  
出力密度  
**3.1** kW/L \*3

## ガソリン車と変わらない使い勝手を実現。

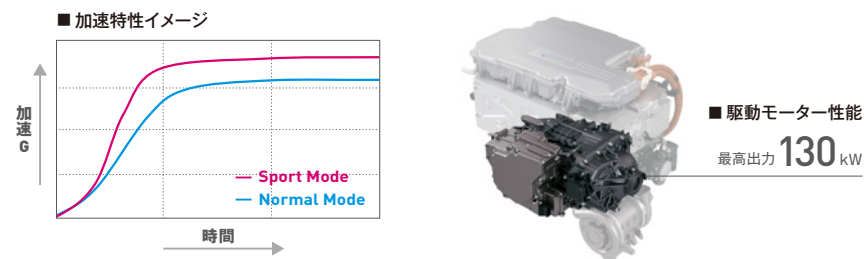
70MPaの高圧水素貯蔵タンクを搭載。パワートレインの高効率化や走行エネルギーの低減により、燃料電池自動車トップクラス\*1の一充電走行距離(参考値)700km以上\*2(JC08モード走行時、Honda測定値)を達成しました。さらに、一回あたりの水素タンクの充填が3分程度\*3(70MPa、外気温20℃の条件でのHonda測定値)という短時間で完了するなど、ガソリン車と同等の優れた使い勝手を実現しています。



\*1 2015年10月現在、Honda調べ。 \*2 SAE規格(J2601)の標準条件に基づいた水素充填圧70MPaステーションでの充填した後のHonda測定値であり、仕様の異なる水素ステーションで充填した場合は、水素タンク内に充填される水素量が異なるため、走行距離も異なります。また、走行距離は使用環境(気温、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて大きく異なります。 \*3 充填圧及び外気温により、充填時間が異なる場合があります。

## 高出力モーターが生み出す爽快な走り。

独創のHonda FC STACKの高出力と、リチウムイオンバッテリーのパワーアシストを、高出力モーターによって駆動輪に伝達します。アクセルを踏み込んだ瞬間に、力強く加速。最高出力130kWのモーターは、ギアが変速せずにトルクを発生しつづけるため、発進から最高速度までなめらかに加速します。さらに、ダイレクトなレスポンスで爽快なドライブフィールと高い静粛性も実現。また、燃費と走りを両立させた「Normalモード」と、加速とレスポンスを重視した「Sportモード」を設定しています。



## 「つくる」「つかう」「つながる」で、CO<sub>2</sub>フリーの水素社会を現実に。

### 「つくる」

エネルギーの地産地消を推進。Honda独自の  
高圧水電解システム搭載  
パッケージ型水素ステーション。

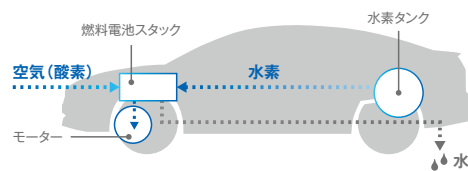


Honda独自の高圧水電解システムを採用した、小さく、設置も簡単なパッケージ型「スマート水素ステーション」。設置期間の大幅な短縮や設置面積の省スペース化に加え、再生可能エネルギーや廃棄物発電の電力など、地域の特性をいかしたエネルギーの地産地消を推進します。

### 「つかう」

究極のクリーン性能。  
水しか出さない燃料電池自動車。

#### ■ 燃料電池自動車の仕組み



燃料電池に水素と酸素を取り込んで化学反応を起こし、電気を発生。その電気でモーターを回して走ります。CO<sub>2</sub>などの排出ガスはゼロで、出すのは水だけ。燃料電池自動車は、究極のクリーン性能を実現します。

### 「つながる」

非常時は走る電源に。大出力、軽量を実現した  
Honda独自の外部給電器  
「パワーエクスポーター9000」。



いざという時、「クラリティ FUEL CELL」は走る電源として暮らしとつながります。Honda独自の大出力・軽量の外部給電器「パワーエクスポーター9000」と接続すれば、家庭や公共施設へ電力を供給可能。一般家庭のおよそ7日分の電力をまかなえます。\*  
\*一般家庭における一日の平均消費電力量(電気事業連合会調べ)から換算した場合。

# NSX



プロトタイプモデル

■全長：4,470mm ■全幅：1,940mm ■全高：1,215mm



## 02

### 異次元の“操る喜び”をもたらす、新時代のスーパースポーツを。

ドライビングプレジャーを追求しつづけるHondaのひとつの到達点、それが新型「NSX」です。初代NSXのDNAを継承し、徹底して軽量化を図ったボディーに新開発の縦置き直噴V型6気筒ツインターボエンジンをミッドシップに配置し、走りと環境性能を両立した革新的な3モーターハイブリッドシステム「SPORT HYBRID SH-AWD<sup>®</sup> (Super Handling-All Wheel Drive)」を搭載。エンジンと、高効率モーターを内蔵した9速デュアル・クラッチ・トランスミッションを組み合わせるとともに、前輪を左右独立した2つのモーターで駆動させ、四輪の駆動力を自在に制御するトルクベクタリング\*を実現することで、さまざまな速度域でのライントレース性を画期的に向上させています。ドライバーの操る意思に最大限に応える一台から、新時代のスーパースポーツ体験 (New Sports eXperience) がはじまります。

\*左右駆動輪に伝達する駆動力の配分をコントロールする制御や機構。



# CIVIC TYPE R



市販車

■全長：4,390mm ■全幅：1,880mm ■全高：1,460mm



## 03

### ダイナミック性能を極限まで突き詰めた歴代最高モデル。

めざしたのは、FF量産車最速。“走る・曲がる・止まる”という、クルマの基本性能を磨き上げ、サーキットから街中の一般道まで異次元のドライブフィールを堪能できる新型「シビック TYPE R」。エクステリアは、スポーツモデルらしい魅力と、エアロダイナミクス性能を兼ね備えたデザインに。パワートレインは、新開発「2.0L VTEC TURBOエンジン」を初搭載。Honda独創のVTECに直噴技術、ターボチャージャーを組み合わせ、最高出力228kW(310PS)、最大トルク400N・m(40.8kgf・m)という歴代TYPE Rモデル最高のエンジン性能を達成し、6速マニュアルトランスミッションとのコンビネーションにより、高い走行性能を発揮します。さらに、専用開発19インチハイパフォーマンスタイヤ&大容量ブレーキシステムをはじめとする装備を採用。Hondaの走りへの情熱を凝縮した一台は、開発車両で行われた走行テストにおいてFF量産車最速タイム\*を記録するなど、優れた性能を実現しています。

\*2015年9月現在、Honda調べ。

# ODYSSEY HYBRID



市販予定車

■全長：4,830mm ■全幅：1,820mm ■全高：1,685mm



## 04

## 進化した「SPORT HYBRID i-MMD」を搭載し、 優れた環境性能と力強い加速を高次元で両立。

“多人数のための最も快適な移動空間”。その理想を追い求め、広い室内空間と風格のあるスタイリング、爽快で安定感のある走りを高次元で融合した上級ミニバン「オデッセイ」に、まもなくハイブリッド車が加わります。小型・高集積化により高い出力密度を達成した新開発パワーコントロールユニットを採用した革新的な2モーターハイブリッドシステム「SPORT HYBRID i-MMD」を搭載し、優れた環境性能と、モーターならではの力強い加速を両立。また、Hondaで初めてIPU（バッテリーと制御装置を一体化したユニット）を1列目シート下に配置することで、広々とした室内空間を確保しています。新たな運転感覚をもたらし、ミニバンの“移動する喜び”をさらに広げる「オデッセイ ハイブリッド」。Hondaがまたミニバンの走りを変えていきます。

# Honda Project 2&4



powered by RC213V

コンセプトモデル

■全長：3,040mm ■全幅：1,820mm

■全高：995mm ■重量：405kg

※写真はフランクフルトモーターショー仕様



## 05

## 二輪車と四輪車の価値を融合。 Hondaだからできる新たなチャレンジへ。

二輪車と四輪車双方を開発するモビリティメーカーだからこそ、創造できる価値がある。その想いのもとスタートしたのが「Honda Project 2&4 powered by RC213V」です。キャビンを持たず、エンジンのパワーを最大限に引き出す削ぎ落としたボディー骨格に、MotoGPクラス2連覇を達成した競技専用マシン「RC213V」のV型4気筒公道仕様エンジンを搭載。さらに、フレームやメカを見せるミニマムカバーデザインや、路面を感じるフローティングシートを採用し、二輪車の開放感と四輪車の運動性能を合わせ持つ、臨場感あふれる新しいドライビング体験を提案します。既存の枠組みや常識にとらわれないモノづくり集団として、また、汎用機からジェット機まで手がけるエンジンのプロフェッショナルとして、Hondaはこれからもモビリティの可能性にチャレンジしつづけます。





# Honda WANDER STAND CONCEPT



コンセプトモデル

- 全長：2,000mm ■全幅：1,250mm
- 全高：1,850mm



06

## 自由な移動の先にある、新しい発見やドラマをめざして。

自由に移動する喜びをもっと広げたい。移動することで出会う発見やドラマをもっと多くの人に体験して欲しい。そんな想いからHondaは“WANDER = 自由に動き回る”をコンセプトにしたモビリティの開発に取り組んでいます。今回ご提案する「Honda WANDER STAND CONCEPT」もその一つ。大人二人が並んで乗車できる空間をコンパクトなボディーの中に実現し、全方位駆動車輪機構「Honda Omni Traction Drive System」を応用。細い路地にも気軽に入れて、前後、真横、斜めへの移動も自由自在、新感覚のドライブフィールも味わえます。さらに、自動運転に切り替えれば、初めて訪れる土地でも車窓の風景を存分に楽しめるなど、移動にこれまでにない喜びをプラスすることをめざしています。モビリティカンパニーとして、安心して快適な移動を追求するのはもちろん、その一歩先の“ワクワク”を見つめて、Hondaはこれからも進みつづけます。



■日本ならではの伝統と技術が融合したモダンインテリア。フロアからシートまでレッドで統一し、シート表皮には京都西陣の技術を用いることで、ドライバーを着座まで“おもてなし”します。



■ドライバーの個性や趣味嗜好に合わせて、ディスプレイにさまざまな情報を表示。

# Honda WANDER WALKER CONCEPT



コンセプトモデル

- 全長：1,080mm ■ 全幅：540mm
- 全高：1,000mm ■ 最高速度：6km/h



■ 圧倒的な小回り性を実現する操舵システム。



■ キーにもなるタブレット。専用ナビやインターフェースを装備。

# 07

## 街中を自在に行き来する、近未来パーソナルモビリティ。

すべての人がいきいきと行き交う近未来の街へHondaが提案するパーソナルモビリティ、「Honda WANDER WALKER CONCEPT」。コンパクトさ、取り回しの良さを徹底追求し、自動改札をスムーズに通過できるわずか540mmの全幅と、1mの回転半径を実現。歩行者と同じように屋外と屋内を自在に行き来することを可能にしました。さらに、場所を選ばないモダンなデザインとし、ショッピング時に便利な収納スペースを充実させるなど、実用性を重視。また、Wi-Fiを活用したリアルタイム通信システム「V2X」への対応や、利用者の走行状態をご家族のスマートフォンで確認することも可能です。これまでにないパーソナルモビリティが、暮らしを、もっとアクティブに、もっとベンリに変えていきます。

# S660

Motor Show Special Collection



コンセプトモデル

■全長：3,395mm ■全幅：1,475mm

■全高：1,180mm



## 08

### “見られる楽しさ”を研ぎすませた、 東京モーターショー特別モデル。

見て楽しい、乗って楽しい、心昂ぶる2シーター・オープンスポーツ「S660」が東京モーターショーに新たなスタイルで登場。ガンメタリックのマット塗装を施し、グロスブラックやメタルパーツ、スウェード素材など、質感でコントラストを際立たせたモノトーンのトータルコーディネートにより、「S660」らしい“やんちゃさ”と、これまでにない“ストイックさ”を演出。「S660」の新たな一面が、見られる喜びを増幅します。

# N BOX



市販予定車

■全長：3,395mm ■全幅：1,475mm

■全高：1,780mm



## 09

### 360°スーパーUV・IRカット採用。 販売台数No.1<sup>\*1</sup>の軽自動車が、ますます快適に。

Honda独創のセンタータンクレイアウトによる広さで人気の「N-BOX」が、ますます魅力的に。新装備の「IRカット(遮熱)/スーパーUVカットプライバシーガラス」を含め、すべての窓ガラスで、UV(紫外線)約99%とIR(赤外線)をカット<sup>\*2</sup>する「360°スーパーUV・IRカットパッケージ」を採用。日焼けやお肌のジリジリ感といった、目に見えない太陽光線を気にせず、すべての席の乗員が、気持ちよくドライブを楽しめます。現状に満足することなく、より良いものを追求しつづける。そんなHondaの志が、日本一売れている軽自動車<sup>\*1</sup>を、さらに進化させます。

\*1 2015年累計(2015年1月~9月)の軽四輪新車販売台数(社団法人 全国軽自動車協会連合会調べ)

\*2 単板ガラスを使用する乗用車として、すべての窓で紫外線約99%カット(ISO9060基準)と赤外線カットを実現。2015年10月現在、Honda調べ。



# NEOWING



コンセプトモデル



# 10

## コーナリングの楽しさと安定感を両立した スポーツハイブリッド三輪。

大型二輪同等のコーナリングフィールを楽しめるスポーティーなリーン走行と安定感を両立させた、これまでにないスポーツハイブリッド三輪です。パワーユニットには、力強くトルクフルな加速を生み出す、低重心の水平対向4気筒エンジンとモーターを組み合わせたハイブリッドシステムを採用。前輪に独自のリンク機構とアクチュエーターによるロール制御技術を採用し、未来感とバイク本来のメカニカルな魅力を強調した構成による、先進性溢れるスタイリングを追求。より多くの方が開放感とアクティブな走りを楽しめる、将来に向けた新たな価値を提案するコンセプトモデルです。

# Concept CB



コンセプトモデル

■全長：2,205mm ■全幅：795mm ■全高：1,100mm

■エンジン種類：空冷 4ストローク DOHC 4バルブ 直列4気筒 ■総排気量：1,140cm<sup>3</sup>



# 11

## 伝統の空冷直4エンジンを現代に受け継ぐ CB1100コンセプトモデル。

「伝統(Tradition)、先進(Advance)、空冷(Air-cooled)」をキーワードに、CB1100を深化させたコンセプトモデル。灯体にLEDを採用しながらも、伝統的な丸目1眼にこだわったヘッドライト。3室構造から2室構造へと変更し、走りに軽快感を生み出すとともに音質に深みを持たせたショートマフラーやフランジレス製法による造形美を湛えたフューエルタンク。また、アルミプレスサイドカバーとメッキパーツが織り成すコンビネーションにこだわるなど、機能性を重視したパーツにもさらなる質感を求め、走りに、存在感に官能的な魅力を追求。大人のライダーを魅了するモデルとなっています。



# Light Weight Super Sports Concept



コンセプトモデル



# 12

## 魅せるスペック、魅せるライディング、存在感を追求した、ライトウエイト・スーパースポーツ。

「アグレッシブ&スピードシェイプ」をデザインコンセプトとし、ロングノーズで低く構えたクラウチングスタイルにより、スピード感ある佇まいを実現。また、硬質で塊感のある面構成とシャープエッジとの組み合わせで、よりアグレッシブさを強調しています。さらに、機能部品など細部にも配慮した造形によりクラスを超えたクオリティを追求し、次世代のHondaライトウエイト・スーパースポーツの方向性を予感させるモデルとなっています。



# EV-Cub Concept



コンセプトモデル

■全長：1,840mm ■全幅：676mm ■全高：1,015mm



13

「継承と進化」をテーマとした、  
近距離移動用パーソナルコンピューター。

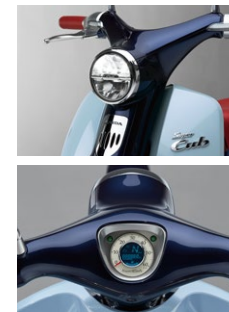
「環境にやさしく」「世界中の人々に愛され、生活に役立つ」存在でありたいという想いととも、初代スーパーカブの「扱いやすく経済的な二輪車」という考えを継承した近距離移動用パーソナルコンピューターです。重量部品であるバッテリーを車体中央の低い位置に配置することで、乗降のしやすさを確保するとともにマスの集中化と低重心化を図るなど、取り回しやすい車体を追求。充電は、レッグシールド内側に配置されたプラグにより、家庭用コンセントで充電可能という気軽さ。また、バッテリー自体も着脱可能とすることで、より幅広いシチュエーションにも配慮しています。カラーリングは、クリーンなイメージと質感の高さを併せ持ったパールホワイトとしています。

# Super Cub Concept



コンセプトモデル

■全長：1,840mm ■全幅：676mm ■全高：1,015mm



14

「継承と進化」をテーマとした、  
低燃費エンジン採用のスーパーカブ。

EV-Cub Concept が近距離移動を想定したコンピューターであるのに対し、Super Cub Concept では、1チャージあたりの航続距離がより長い低燃費エンジンを搭載。初代スーパーカブの「やさしい曲面基調のスタイリング」をモチーフとしながら、よりシンプルに洗練させ、一目でスーパーカブと伝わるデザインとしました。車体はHonda独自の使い勝手の良さを追求したレイアウトを継承。カラーリングは、キャンディーブルーメタリックとライトブルーパールの組み合わせとすることで初代スーパーカブを想起させながら、より深みと高級感のある色調としています。

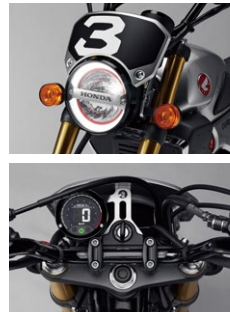
# GROM 50

World PREMIERE

## Scrambler Concept-One

コンセプトモデル

- 全長：1,700mm ■全幅：940mm ■全高：1,025mm
- エンジン種類：空冷 4ストローク OHC 単気筒 ■総排気量：49cm<sup>3</sup>



15

若者にバイク本来の魅力を提供する  
気軽に楽しめるNeoレトロ スクランブラー。

「Neoレトロ スクランブラー」をキーワードに、本物志向の若者に向けたバイクらしいシンプルな車体構成でデザイン。タンクパッドを採用したフューエルタンクやパンチングタイプのマフラーガードなど素材感にまでこだわったノスタルジックな雰囲気と、フル液晶タイプのデジタルメーターや、中央に「HONDA」ロゴを配し周囲のリングが光る、独特なデザインのLEDヘッドライトなどにより新鮮な印象を両立。街中ではもとより、ガレージの片隅に置いてあるだけでも存在感を放つ質感を持ちながら、普段着で乗れる気軽さも備えたモデルです。

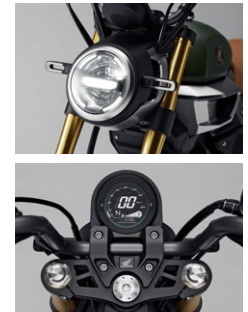
# GROM 50

World PREMIERE

## Scrambler Concept-Two

コンセプトモデル

- 全長：1,700mm ■全幅：730mm
- 全高：1,200mm
- エンジン種類：空冷 4ストローク OHC 単気筒
- 総排気量：49cm<sup>3</sup>



16

若者にバイク本来の魅力を提供する  
気軽に楽しめるModern スクランブラー。

Concept-Oneの「Neoレトロ スクランブラー」に対し、Concept-Twoは「Modern スクランブラー」をキーワードに開発。コンパクトな車体に新しいスタイルを追求し、シートを支えるリアフレームには軽量・高剛性のモノコック構造を採用。つくりこみにもこだわった次世代のスクランブラースタイルとしています。さらに、都会的な雰囲気にミリタリーテイストをミックスし、男らしさと堅牢さを表現。オンロード、オフロードを問わずどこにでも行けそうなイメージを持ったモデルです。



# RC213V-S

## 市販車

- 全長：2,110mm ■全幅：770mm ■全高：1,115mm
- エンジン種類：水冷 4ストローク DOHC 4バルブ V型4気筒
- 総排気量：999cm<sup>3</sup>

※写真は欧州仕様車



# 17

## MotoGP参戦マシン「RC213V」を 一般公道での走行を可能とした「RC213V-S」。

2013年・2014年シーズンのMotoGPにおいて2連覇を達成した「RC213V」を一般公道での走行を可能としたマシン。RC213Vの徹底したマス集中化とフリクション低減をはじめ一般の量産車との圧倒的な差を生んでいる“構成部品の軽量化と加工精度”“製作時の高い技能”を全て踏襲。さらにRC213Vに採用されている制御技術も採用しました。RC213V-Sは、RC213Vの動力性能の再現ではなく、完成車としてのパッケージングとRC213Vのライディングフィールを限りなく再現することを目的に開発。また、サーキットなどのクローズドコースにおいてのみRC213Vの世界により近づいた速度域での走行を可能とする「スポーツ・キット」を設定しています。



# CRF1000L Africa Twin



## 市販予定車

■全長：2,335mm ■全幅：930mm ■全高：1,475mm

■エンジン種類：水冷 4ストローク OHC (ユニカム)

4バルブ 直列2気筒

■総排気量：998cm<sup>3</sup>

※写真は欧州仕様車

\*出展車にはアクセサリーが装着されています。



# 18

## 日常での走行から広大な大地まで走破できる、 本格アドベンチャーモデル。

「広大な大地を走り抜け、様々な場所に行くことを可能とする夢の実現」を開発コンセプトとし、オフロードでの走行を可能としながら日常の使い勝手の良さも追求した大型アドベンチャーモデルです。新開発のエンジンは、コンパクトな直列2気筒270°クランクによる抜群のトラクション性能を持ち、軽量のセミダブルクレードルフレームの採用によってオフロードでの優れた走行性能とオンロードでの軽快感と安定感を兼ね備えたハンドリングを実現。さらに、ABS、Honda セレクタブルトルク コントロールを標準装備する他、コントロール性能を向上させたデュアル・クラッチ・トランスミッション (DCT) を搭載したモデルもタイプ設定しています。車体色は、ダカールラリー参戦マシン「CRF450 RALLY」のイメージを踏襲したCRFカラーをはじめ、トリコロール、シルバーの設定を予定しています。

# NC750X



## 市販予定車

- 全長：2,230mm ■全幅：845mm ■全高：1,350mm
- エンジン種類：水冷 4ストローク OHC 4バルブ 直列2気筒
- 総排気量：745cm<sup>3</sup>

\*出展車にはアクセサリ及びカスタマイズパーツが装着されています。



# 19

## さらなるアドベンチャーイメージと快適な走行を両立したクロスオーバーモデル。

アップライトなライディングポジションによる快適性と、行動半径を広げる機動力を両立したクロスオーバーモデル。外装部品を一新し、アドベンチャーイメージを強調するとともに、導光ライン採用のLEDヘッドライトにより、新たなNC750Xのアイデンティティーを表現。また、LEDテールランプや表示色可変式メーターパネルを採用する他、ラゲッジボックスリッドの上面にヘビードューティーなイメージを演出するユーティリティーレールを設定するなど装備を充実させました。さらに、排気音のバルス感を向上させた異型断面マフラーの採用や、DCT搭載タイプはDCTのSモードに3段階のレベルを設定するとともにDCT制御の熟成を図り、ライダーの感性に訴える走りの魅力をいっそう高めています。

# 400X



## 市販予定車

- 全長：2,085mm ■全幅：830mm ■全高：1,335mm
- エンジン種類：水冷 4ストローク DOHC 4バルブ 直列2気筒
- 総排気量：399cm<sup>3</sup>

\*出展車にはアクセサリ及びカスタマイズパーツが装着されています。



# 20

## 冒険心をかき立てる力強いイメージをさらに追求したクロスオーバーモデル。

ダイナミックなスタイリングと都会的で洗練されたプロポーションを備えたクロスオーバーモデル。「FEEL THE ADVENTURE FORM」をデザインコンセプトに、冒険心をかき立てる力強いイメージを追求。カラーリングには、タイヤパターンをモチーフにしたストライブを採用し、アドベンチャーイメージを強調。また、LEDヘッドライトの採用やウインドスクリーンの下部に配置したシルバー塗装を施したガーニッシュ、大型ウインドスクリーン装備により、質感のある威風堂々とした表情を演出しました。さらに、テールランプレンズ、インナーレンズともにクリア仕様としたLEDテールランプを採用。フロントサスペンションをプリロード調整機構付きとするなど装備もさらに充実させています。



# CBR400R



市販予定車

- 全長：2,080mm ■全幅：750mm ■全高：1,145mm
- エンジン種類：水冷 4ストローク DOHC 4バルブ 直列2気筒
- 総排気量：399cm<sup>3</sup>

\*出展車にはアクセサリ及びカスタマイズパーツが装着されています。



21

よりアグレッシブなスタイリングを追求したフルカウルスポーツモデル。

街中での走りからスポーツライディングまで幅広く楽しめるフルカウルスポーツモデル。前方にスラントさせたフロントフェイスと、躍動感を演出したリアまわりにより、空気を切り裂くようなフォルムを実現。フェーエルタンクやリアカウルをはじめとする各外装部品は、エッジの効いた彫刻的なキャラクターラインを与えることで「鋭利なエッジのある塊感」を演出。アグレッシブでスピード感あるプロポーションを追求しました。また、LEDデュアルヘッドライトやLEDテールランプの採用、フェーエルタンクの容量拡大など装備も充実。マスの集中に寄与するショートマフラーの採用や2気筒エンジンらしい歯切れの良い排気サウンドにより磨きをかけるなど、走る楽しさにもさらにこだわっています。

# GOLDWING



市販予定車

- 全長：2,630mm ■全幅：945mm ■全高：1,525mm
- エンジン種類：水冷 4ストローク OHC 水平対向6気筒
- 総排気量：1,832cm<sup>3</sup>



22

グランドツアラーというカテゴリーを切り開いたキング・オブ・モーターサイクル。

1975年の発売以来、ロングツーリングの喜びのために、独自の進化を果たしてきたグランドツアラーモデル。エンジンは、低重心の水冷4ストロークOHC水平対向6気筒。シャシーには軽量・高剛性のアルミ製ツインチューブフレームを採用し、操る楽しみをライダーが享受できる軽快かつ快適なライディングフィールを目指しました。またエアロダイナミクスを追求したフェアリングや快適性にこだわったシートなどにより、ファーストクラス感覚の乗り心地を実現。新たなカラーリングには「高品質」「高級感」というコンセプトのもと、ヘビーグレーメタリックを採用しています。



# CB1100

日本初出展  
Japan  
PREMIERE

## Customized Concept

カスタマイズコンセプト



# 23

トラディショナルなカフェレーサースタイルを力強く表現したカスタマイズコンセプト。

シングルシートやバーエンドミラー、ショートメガホンマフラーなど、こだわりのアイテムと、ブラックの車体にチェッカーフラッグをモチーフとしたホワイトのストライプを用いることで「トラッド&ワイルド」なカフェレーサースタイルを表現。CB1100の独自の魅力をさらに深めています。

# CB1300

日本初出展  
Japan  
PREMIERE

## SUPER BOL D'OR Customized Concept

カスタマイズコンセプト

# 24



# CB400

日本初出展  
Japan  
PREMIERE

## SUPER BOL D'OR Customized Concept

カスタマイズコンセプト

# 25



これからのCBシリーズのデザインイメージを予感させるカスタマイズコンセプト。

ダークトーンを基調としたカラーリングに、鮮烈さを印象付けるレッドを随所に配して、CBシリーズに相応しい高揚感と躍動感を全身で表現しています。

# GROM Customized Concept



カスタマイズコンセプト

## 26

スポーティーなカフェスタイルイメージを追求した「Neo Café Racer Style」カスタマイズコンセプト。

# PCX Customized Concept



カスタマイズコンセプト

## 27

PCXのスタイリッシュな外観をよりシャープに際立たせるカラーリングをまとった、カスタマイズコンセプト。

# FORZA 125

参考出品車(海外販売車)

- 全長：2,135mm ■全幅：750mm
- 全高：1,455mm
- エンジン種類：水冷 4ストローク OHC 4バルブ 単気筒
- 総排気量：124.9cm<sup>3</sup>

※写真は欧州仕様車

## 28

スポーティーな印象と  
実用性を両立した125ccスクーター。

エンジンは、動力性能と燃費性能に優れたスクーター用グローバルエンジン「eSP」を搭載。フルフェイスヘルメットが2個入る大容量ラゲッジスペースや可動スクリーンなどの採用により機能面も充実。環境への配慮や使い勝手にこだわったモデルとなっています。



# Monkey



市販予定車

- 全長：1,365mm ■全幅：600mm ■全高：850mm
- エンジン種類：空冷 4ストローク OHC 単気筒
- 総排気量：49cm<sup>3</sup>

## 29

アウトドアイメージに  
カラーリングされた「モンキー」。

「アドベンチャーモンキー」をキーワードに、カラーリングにハーベストページを採用。また、カムフラージュ柄シート、オレンジ塗装の専用リアサスペンション、結晶塗装のエンジンヘッドカバーを採用し、アウトドアイメージを高めています。



# E500



## Battery Inverter Power Source

プロトタイプモデル

■全長：250mm ■全幅：180mm

■全高：240mm ■重量：約6kg



# 30

## 自由な発想が生んだ、“自分らしさ”を表現できる蓄電機。

電気のある暮らしをもっと楽しんで欲しい。いざという時、暮らしや笑顔を支えたい。そんな想いで、50年以上にわたって携帯発電機の研究開発を行ってきたHondaが提案する、まったく新しい蓄電機、それが「E500 Battery Inverter Power Source」です。小さい、軽い、持ち運びやすい。スマートフォンやデジタルカメラ、パソコンなど、いろいろなアイテムを充電可能。さらに、丸みを帯びたフレンドリーなデザインや豊富なカラーバリエーションなど、遊び心をくすぐる要素をプラス。アクセサリパーツやオリジナルステッカーなどで、カスタマイズも行えます。自分らしさを表現できる蓄電機「E500 Battery Inverter Power Source」。Hondaの常識にとらわれない自由な発想は、この一台にも息づいています。



夢の力を原動力に。  
八郷隆弘

The Power of Dreams  
— *Takahiro Hachigo*

